平成24年度 全国学力・学習状況調査の大山町の結果概要をお知らせします（続報）

広報「だいせん」12月号で「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお知らせしましたが、今回は、その続報として特に、生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査結果を中心にお知らせします。

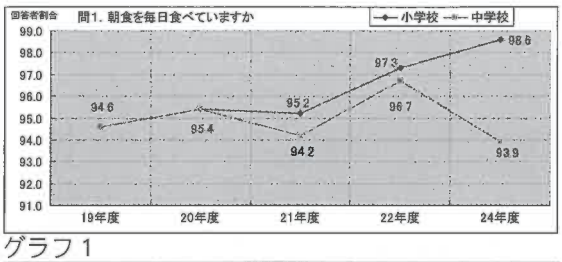
質問紙調査から見える児童生徒の姿

質問紙調査において、県や国、過去5回の調査結果と比べて特徴的な傾向のある項目が見られます。

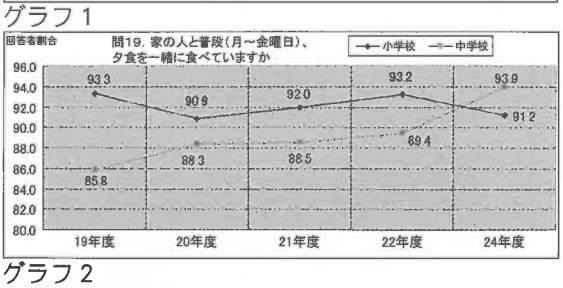
平成19年度から5回実施した結果、基本的生活習慣（表1）について、朝食を毎日食べている小学校6年生と中学校3年生の肯定的な回答割合は、着実に上がっています。これは、PTA活動を中心とした取り組みや保育所・園などと連携をとった成果だと考えることができます。

また、中学校3年生では、「家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか。」（表2）という問いに対して、肯定的な回答割合が年々上がっています。これに伴い、表からは、読み取ることはできませんが、家の人と学校での出来事について話をしている中学校3年生の割合も平成19年度58・1ポイントから今年度は71・1ポイントになり、良好な結果となっています。

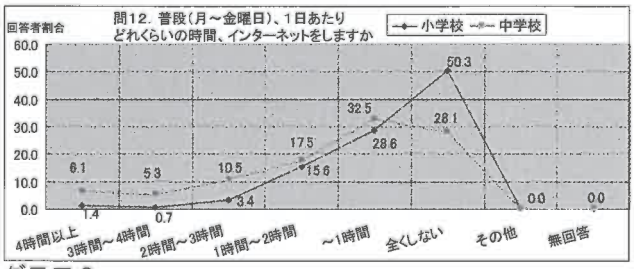
インターネットでのトラブルがニュース等で取り上げられていますが、平日のインターネット使用時間については1時間以上使用している小学校6年生が21・1％に対して、中学校3年生が39・4％と高い結果となっています。有害サイト等についてフィルタリングをかけるなど、保護者の管理姿勢も大切になります。



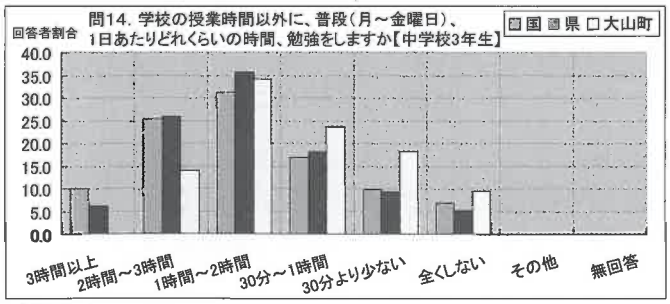
グラフ1



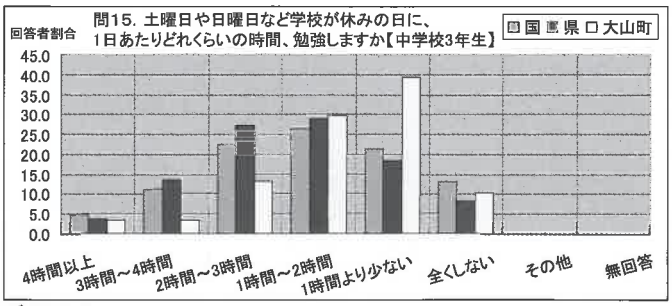
グラフ2



グラフ3



グラフ4



グラフ5

平日の家庭学習時間（表4）については、1時間未満の中学校3年生の割合は、県と比べて約19％高くなっています。小学校6年生のグラフは載せていませんが、1時間から2時間程度学習する小学校6年生の割合も、県と比べて約3％低くなっており、全くしない割合も約3％高くなっています。

土曜日や日曜日など学校が休日の家庭学習時間（表5）について、2時間から3時間程度学習する中学校3年生の割合は、県と比べて約14％低く、3時間から4時間程度の割合が10％低くなっています。また、1時間未満の割合が、約21％と高い結果であり、大山町児童生徒の大きな課題となっています。

小学校の時期から家庭での学習時間や学習する教科、単元などを自分で決めて、集中して学習に取り組むことができるよう自主学習の仕方を身につけ、中学校進学以降も継続して自分で計画的に家庭学習を進めていく習慣づくりをしていく必要があります。